

2024/2/23 開催 いけんひろば
～安心して子どもを産み育てられるために、どんな社会になってほしいですか？～
いけんのまとめ オンライン回

※小学生が参加した1班と3班の文章には読み仮名をつけています。

1班 (小学生5名)	2
あそ たいけんかつどう 遊びや体験活動などについて	
2班 (中学生2名、高校生世代1名)	8
「子どもまんなかまちづくり」について	
3班 (小学生2名、高校生世代3名)	12
ともばたら ともそだ 共働き・子育てについて	
4班 (高校生世代2名、社会人世代3名)	20
地域子育て支援、家庭教育支援について	
5班 (大学生・大学院生世代1名、社会人世代4名)	25
こどもの貧困対策について	
6班 (高校生世代1名、大学生・大学院生世代2名、社会人世代3名)	28
子育てや教育に関する経済的負担の軽減について	
いけんひろば後に追加のあった意見	33

1班 (小学生5名)

テーマ：遊びや体験活動などについて

○どんな遊び場や居場所があったらいいと思いますか。

- こどもたちだけで法律の範囲内で色々なことをして遊べる場所が欲しい。
- 校区内に無いので、近くに児童館や図書館をつくってほしい。
- 遊び道具がたくさんある場所が欲しい。普通の家には無いものがあると良い。
- 家ではできない体験ができる場所があると良い。例えば、家ではできない理科の実験ができるとう良い。
- 学校の近くに公園や図書館を多くつくってほしい。
- 小さい頃に住んでいた場所では、建物の中に雨でも遊べる遊び場があった。そのような場所は小さい子のための場所で、大きくなったら遊べない。大きい子でも遊べる場所が欲しい。

○その場にどんな遊具やスペース、イベントがあってほしいと思いますか。

- 体育館で好きなように遊べるようにしてほしい。ボールやバスケットコートがあれば楽しい。家の近くにはバスケットコートがあるのは学校くらいしかない。
- 跳び箱、竹馬、大縄跳び等もやりたい。
- 運動会の時、1年生しか玉入れをしない。でも、私は2年生、3年生になっても、玉入れが楽しいのでやりたい。「運動会でできなかった運動会でやりそうなもの」をやるイベントがあると良い。
- 北海道の雪を活かして雪中運動会等、雪に関するイベントがやりたい。
- ボルダリング施設等、家の近くにアスレチックができる場所が欲しい。

- 学校の体育館以外に体育館で遊べる場所が無いので、学校の体育館で自由にボールやマットを借りて遊べるようにしてほしい。体育館で道具を使う時、倉庫から好きな道具を出して遊べるようにしてほしい。授業時間以外は倉庫が閉まっているので使えない。
- 月に1回くらい、地域の人同士で触れ合うイベントをしてほしい。学校でどんな遊びをしたいか計画し、イベントを子どもが中心になって行う。そうすると地域の交流もできて、人々のつながりも強くなるかもしれない。

○「遊びにくい」と感じる場面はどんな場面ですか。

- 公園では小学生より下の小さい子しか遊具で遊べない。小学生でも友達と自由に遊べる場所をつくってほしい。
- 鬼ごっこ等、苦手な人がいると入りづらい。
- 苦手なことをしている時や忙しい時に、遊びを強制参加にするのはやめてほしい。
- 遊んでいる時に「仲間に入れて」というと、「いま遊んでいるから」と仲間はずれになったりする。
- 公園の遊具で高校生や中学生が遊んでいないのに座ってダラダラしているのが怖い。
- 休憩しようとベンチに座ろうとしたら、高校生や中学生がスマホを触っていてずっと座れないことがあるので、ベンチを使う時間を決めてほしい。
- ベンチに荷物を置いて占領している人が居るのでやめてほしい。
- 低学年がいる場合、低学年に遊具を先に使わせるようにして自分は使えないので遊びにくい。
- 学校の体育館で1年生から6年生まで交代で遊べるが、勝手に他の学年が入ってくることもあるの

で遊びにくい。

- 公園で低学年に遊具を譲らないと怒ったり泣いたり喧嘩になったりするので譲るようにしているが、3時間くらい経っても全然交代してくれない。そのような場合は別の公園に行くようにしているが、本当は交代するようになってほしい。使える時間を決めてほしい。

○さまざまな体験活動がありますが、みなさんがやったことがある活動はありますか。

- クラブ活動や子ども会で活動したことがある。
- 劇場で、人形浄瑠璃の小学生向けワークショップに参加したことがある。
- 5年生と6年生の時に自然体験をした。結構楽しかった。
- 学校の係や委員会活動をやった。係ではオンラインで使えるデザインツールを使って SNS に小学校が何をやっているかを投稿した。委員会では、ICT委員としては学校のイベントや勉強を楽しくする方法等を考えている。
- プログラミングを習っているが、ゲームをついたりプログラミングをしたりしている。シューティングゲームをついた。
- 書道をやったことがある。
- 5年生が能登半島地震の募金活動をしていたので募金した。郵便局でも募金した。
- お店やユニセフに募金したことがある。
- カップラーメン工場で、カップラーメンをつくる体験をした。
- 学校の金管楽器や打楽器の練習をしている人たちがいる。運動会の時、曲を弾いたりしているので

やってみたい。今はバイオリンを習っているのですが、イベントでの演奏に挑戦したいが難しいと思っている。

- プログラミング教室のイベントでロボットをつくったことがある。
- 総合の授業で災害対策について調べた。どんな対策をしているのか知りたかったので、先生の携帯電話を借りて、「学校に来て話してくれないか」と交渉したことがある。
- クラフト体験でお花を使ってコースターやしおりをつくったり、レジンで作品をつくった。面白かった。
- ピアノを習っていたことがあるので、簡単な曲であれば弾ける。
- いろんな学校が集まって、練習した音楽を発表することがあった。1つのホールにいくつかの学校が集まって何日間かに渡って発表した。学校の運動会とは別で、いくつかの学校が集まって行うスポーツ大会のようなものもやったことがある。徒競走、ハードル走、幅跳び、高跳び、リレー等をやった。
- 書道を習ったり、総合の授業で茶道や刃物について調べた。刃物を作っている工場に行き行って調べたりインタビューをしたりした。
- 地域で清掃活動をしたことがある。
- 国際交流体験をやったことはないが、学校で配られるチラシに「海外に行きませんか？」と書いてあったのを見た。

○やってみたい活動は何ですか。

- 夏と秋に自然体験に行ったことがあるので、冬にスキーをやってみたい。
- アメリカへ旅行に行った時、スキーをした。またやりたい。そこはキャンプ場だったが、雪が降ったのでスキー場になっていた。来年も行きたい。

- 登山やスキーをやってみたい。
- 動物園のバックヤードツアーのチラシを見たことがある。動物園の裏側が見られるので、参加してみたい。
- 釣り堀でタイを釣ったことがある。今度は大物を釣りたい。マグロや鮭を釣りたい。
- 2年生の頃、ホームステイに行きたかった。ホームステイはどうやって申し込むのか全然分からなかった。お母さんも中学生や高校生になると学校から行けるかと言っていた。学校からでないと行けないのか知りたい。
- イベント等で化学実験をやりたい。酸素をつくる実験は、小学校ではあまりできないのでやってみたい。たまに先生が教科書に載っていないことをやってくれる。
- 国立科学博物館に行った時、色々なことを研究している人に話を聞いて面白かった。また行きたい。
- 算数の問題をつくってみたい。立体や規則性の問題をつくりたい。
- 実験イベントで作り方を教えてもらったが、他の人がつくったものも見たいと思った。

○やってみたい活動がどのような場所や時期に開催されると参加できますか。

- 夏休みや休みの日であれば、ほとんどの人が行けると思う。
- 場所は家の近くで開催されて、時期は塾とかぶっていない時期だと良い。
- 化学実験は長期休みでなく土日でも良い。自然体験は無理かもしれないが、算数の問題つくったりすることは土日でもできる。
- 交通機関から近い場所でやると、色々な人が行けるので良い。

- 近い場所ちかで、学校がっこうが休みやすの日にひやってもらえいると行きやすい。
- みんなが知しっている広い広場ひろ等ひろでイベントをした方がほう分かりやすくよくて良い。
- 職業体験しよくぎょうたいけんは仕事しごとを実際じっさいにやっている場所ばしょで行う方がほうリアル感かんがある。

以上

2班（中学生2名、高校生世代1名）

テーマ：「こどもまんなかまちづくり」について

○まちなかで遊ぶ時や登下校の際に、公園や水辺、通学路等で困ったこと・こうした方がいいと思うことはありますか。

<通学路について>

- 自分は比較的田舎に住んでいる。バスで通学しており、バス停までは自転車で行き、バス停から学校まではすぐ近くなので歩いている。橋の上にバス停があって、橋の下に自転車を停めているが、本当は橋の下に自転車を停めたくない。バス停の近くに駐輪場を増やしてほしい。盗難はないが、学校から帰ってくると自転車が倒れていたり、自転車のかごの中にお酒の缶が入っていたりすることがある。また、かつて素行の悪い人たちが橋の下に溜まっており、今でも溜まり場になっているという噂がある。正式な駐輪場があれば、橋の下が溜まり場のようなことを防げるだろうと思う。
- 徒歩で20分ほどかけて通学している。気になるのは、歩道にごみが落ちていること。町の人たちが掃除してくれているのを見かけるが、それでもゴミを捨てる人はいなくなるので、良くないと思う。
- 通学路の中に交通事故が起こりやすい場所があり、危ないと思う。道は広いが、信号がない交差点で、色々な人がぶつかったり、たまに動物も事故に遭ったりしている。あとは、通学路に小さい川がある。川の柵の下にへこんだ部分があり、タバコなどが捨てられている。発火したら大変だなと思う。
- 徒歩で25分ほどかけて通学している。通学路には信号がない横断歩道が結構多い。特に夜などは、車が止まってくれないこともある。

<遊ぶ場所について>

- 小学生のときに公園でボール遊びをしていたが、公園が小さいというもあり、近隣の人や公園の他の利用者から「ここではボール遊びをしちゃだめ」と言われた。「小さい子たちがボール遊びをするのは危ないから」というのが理由だった。学区内にある公園の中に、ボール遊びができる公園がほとんどなかった。今の状況は分からないが、自分が小学生だった頃は新型コロナウイルスの影響で放課後に学校が開放されていなかったため、遊ぶ場所がなかった。
- 友達と遊ぶとき、公園やゲームセンターによく行く。公園には「ボールで遊んじゃだめ」という張り紙がなくても「ボール遊びはだめ」と言われたり「野球をしたらダメ」と言われたりする。あとは「騒がしくするな」とも言われる。ゲームセンターでは、知らない人に声をかけられることもある。あとは、こどもたちがよく遊ぶ場がショッピングモールの中にあるが、そこで遊んでいたときに「帰れ」と言われたこともある。ショッピングモールの中の遊び場では小さいこどもがよく遊んでいて、中学生はあまり遊んでいないので、中学生である自分たちは「帰れ」と言われたのだろうと思う。
- 最近公園にはあまり行かない。小学生の時はよく公園に行っていた。今は住んでいる町の大きな駅の近くや、学校の周辺で遊ぶ。特に危険は感じていないが、強いて言えば駅前の広場に宗教の勧誘をする人がいる。ただ、しつこく勧誘された経験はないのでそこまで不安には感じていない。小学生のとき公園で遊んでいた時も、何も注意されなかった。野球をしていてホームランを飛ばしてしまったときでも何も言われなかったし、寛大だった。

- 住んでいるところでは、家の敷地にボールが入っただけで怒られることもある。「ボールを外に飛ばすな」と言われる。看板に書かれている市が定めたルールとは別のことも沢山言われる。
- 中高生にとって遊ぶ場所があまりない。乳幼児や小学生は楽しむために遊具が必要だと思うが、中学生以上だと、何も遊具がない場所でも遊べる。ボール遊びなどもするが、屋内のフリースペースで遊ぶことが多い。
- 公園がボロボロ。あまり使われておらず、最終的には空き地のようになっている。大きい公園には人がいて沢山遊具もあるが、ブランコしかない公園などもあるので、もっと遊具を増やして整備してほしい。公園間の格差が大きい。
- 地元には大きい公園も 5 箇所くらいあり、大人も運動できるような場所になっている。公園にトレーニング器具が置いてあるが、その器具を小さい子どもが使い、けがをしているのを見たことがあるので何とかしたい。

<自転車について>

- 自分の地元は自転車移動をする人がとても多い。自転車の交通量が多いにも関わらず歩道と車道が分かれていない道も多く、狭い。車道に自転車が 2 列くらいになって走っていることもある。
- 自転車で市街地に行くことがあるが、駐輪場のキャパシティが足りていない。町中のいろいろなところに駐輪場はあるが、どこも自転車がいっぱい、止められない。なので、停めてはいけないと注意書きがあるスペースに駐輪してしまっている自転車も見かける。駐輪場付きのお店はあまりない。
- 僕が住んでいるのは田舎でもなく都会でもないすごくいいところ。市内にいくつか駅があるが、そのうちの 1 つに大きな駅がある。その駅には有料の駐輪場があるが、お金を払いたくないので駐輪禁止スペースに駐輪する人もいる。自転車が置いてあるので、歩道も狭くなってしまっている。
- 車道に自転車専用レーンをもっと増やしてほしい。道に自転車が溢れている状況もある。車を使えない学生にとっても遊びやすい町にするためには、自転車をもっと使いやすいような町に変えられたらいいのではないかと思う。

<道について>

- 中学生の時は、自転車を使って町まで遊びに行っていた。町に行くために通る道は、昔からあったような細い道で、車線が 2 つのみで自転車専用道路がなく通りづらかった。
- 学校の友達ほぼ塾に通っている。自分はオンライン授業を受けているので大丈夫だが、塾は帰りが 22 時を過ぎることもあるとのこと。帰り道に街灯がほとんどなく、人も少ないので危ないと聞く。
- バス停がある道路では、反対側にわたる必要があるのに近くに横断歩道がない。横断歩道を作ってほしいと思う。

<水辺について>

- 身近に川はあるが、近くまで行くことはあまりない。たまに河川敷で地域のイベントが行われていることがある。

- 住んでいるところには川も海もあるが、学校から「流されたら危ないので川や海には近づくな」と言われている。子どもたちだけで川や海に行くことはまずない。川も、汚すぎて行きたいと思わない。
- 市内には鵜飼なども行われる有名な川がある。遊泳禁止ではないため、その川で溺れたり、流されたりする人が多く出ており、夏には事故が多い。

<トイレについて>

- トイレがとても暗く、治安が悪そうなところが多い。トイレの入口部分に防犯カメラを付けたり、照明を明るくしたり、近くに花壇を置いたりして雰囲気をよくすれば、子どもも安心してトイレにいけるのではないかな。市内で、過去にトイレに子どもが連れ込まれた事件もあった。早めに改善してほしい。
- 公園にトイレが全然ない。バスに長時間乗っていて体調が悪くなった時、公園にトイレがないのでどこに入ればいいのかかわからず、仕方なくコンビニや施設などを探して入る。できれば公園に公衆トイレがあると安心できる。

<新型コロナウイルスの影響について>

- 新型コロナウイルスは落ち着いてきたが、その名残で、以前はできていたのにまだできていないこともある。例えば、自習室などの市の公共施設を使える時間が新型コロナウイルスの影響で短縮され、今もまだ短縮されたままになっていることなどがある。

○自分が子育てをすることを想像したとき、どのようなまちだと嬉しいですか。

<文化施設について>

- 図書館の数が増えてくれると嬉しい。自分は小さいころに、図書館の読み聞かせイベントに行ったり、両親と図書館に行き一緒に本を読んだりすることがあった。そういった経験ができる図書館が増えると子育てがしやすいだろうと思うし、子どもが文化に触れる機会が増えて良いと思う。
- 美術館や博物館も増えてほしい。今は都会的なところにしかなく、郊外にはない。コンパクトシティ政策によって郊外でも生活利便性を向上させる計画がなされている中で、美術館や博物館などの文化施設も郊外に作ってくれたら嬉しい。子育てをするという目線からも、子どもが文化に触れることができるのはメリットだし、学生目線でも、地域の歴史や美術に触れたいとき気軽に立ち寄れる地域の施設があると嬉しい。

<道について>

- 自分の住んでいるところの周りには歩道に段差があるところが多い。ベビーカーなどを使っていると、移動しづらいと思う。道路が平坦で通りやすくなったらいいと思う。
- 通学路の途中にあまり人が来ない公園があり、外からも中が見えづらくて怖い。通学路があまり細かく指定されていないので、子どもが危ないところを通ってしまい、犯罪が起こりやすくなることを心配している。

<公園について>

- 自分が住んでいる市は、駅の近くに遊具がある公園がある。一方、駅から少し離れると、小さい公園ばかりになる。大きい公園には車などで移動する必要があるので、住宅地にも、遊具がそこそこそろっている公園があると便利じゃないかなと思う。

○住んでいるまち（駅など）で、エレベーター、スロープなどバリアフリーな環境は整備されていますか。

- 点字ブロックは駅の中に入らないとない。この前、目が見えない人がエスカレーターに逆方向から入ってしまい、周囲の人が助けていた。点字ブロックをもっと増やせると良いと思う。
- 自分が住んでいる地域の中心的な駅では、エレベーターが完備されているところが多い。ただ、自分が住んでいるのはローカル線が走っているところで、ローカル線の駅には、スロープがなく、階段しかない駅も結構多い。需要が低いのだとは思いますが、バリアフリーは必要だと思う。
- 市内では最近バリアフリー化の工事が終わり、エレベーターやスロープができた。使いやすくなったと思う。

以上

3班 (小学生2名、高校生世代3名)

テーマ：共働き・子育てについて

○あなたの親は子育てしやすそうですか。大変そうですか。



- 親は共働きしている。きょうだい2人いて、親は3人を育てて大変そうだった。習い事の予定があるので、習い事や保育園の送り迎えが重なることがある。親が分担するのが大変そうだった。
- 親が共働きである。父が小学校のころから単身赴任していた。母が自分ときょうだいを一人で見るのは大変そうだった。父が近いところに赴任しているときは数日に1回は会えたが、1か月会えないときもあって、会えなくて寂しかったし、母も家事をひとりでしていたので大変そうだと思った。父が家にいないことが多かったので、母は送り迎えが大変だった。家から近い場所の単身赴任だったら、もっと子育てしやすかったと思う。父は学校などのイベントのときに帰ってくることもできなかった。子どものイベントがあるときに、親が帰りやすいような仕組みがあるといい。
- 自分の親は子育てが大変だったわけではないと思うが、仕事は朝早く、夜遅かった。父は勤務先が遠かった。1週間会えなくて当たり前前ということもあった。両親の職場は子育てに理解があり、学校や保育所が急に休みになった時は、子どもを職場に連れて行って、子どもが遊んでいたり絵をかいていたりということが大丈夫な環境だった。職場に子どもを連れて行くことができるかは職種によると思う。働

いている人^{ひと}やサービスの利用者^{りようしゃ}が「働く人^{はたら ひと}が子ども^{こども}を連れてきてもいいよ」ということであれば、子ども連^つれの出勤^{しゅっしん}もできるといいと思う。また、自分の近所^{きんじよ}の人も優しく^{やさ}くて、親^{おや}が遅い^{おそ}ときは近所^{きんじよ}の家^{いえ}に行く^いことができて、色々^{いろいろ}なところから「来ていいよ」と言^いってもらえた。近所^{きんじよ}の人^{ひと}は、登下校^{とうげこう}でもあいさつしてくれたり頻^{ひん}繁^{ばん}に会話^{かいわ}していた。近所^{きんじよ}のつながりはあつた方^{ほう}がいいと思う。友達^{ともだち}からは「親^{おや}がいないときはずっとひとりだった」という話^{はなし}も聞^きいたことがあるので、自分^{じぶん}は恵^{めぐ}まれていた。

- 親^{おや}は小さい会社^{がいしゃ}をやつていて、いつも家^{いえ}にいる。子育て^{こそだ}でお金^{かね}が圧迫^{あつぱく}されているのが大変^{たいへん}そう。駐^{ちゅう}車^{しゃ}場^{じょう}の整備^{せいび}や貸^かし出^だしている倉庫^{そうこ}が老朽^{ろうきゅう}化^かしているその修繕^{しゅうぜん}費^ひや、子育て^{こそだ}サポートのお金^{かね}が今^{いま}よりもあるといい。また税金^{ぜいきん}が高^{たか}すぎるので、減税^{げんぜい}してとは言^いわないがサポートしてほしい。
- 親^{おや}は共働^{ともはたら}きだが、子育て^{こそだ}しやすかつたのではないか。親戚^{しんせき}の家^{いえ}が近所^{きんじよ}にあるので、両親^{りょうしん}が仕事^{しごと}で家^{いえ}にいないときには親戚^{しんせき}が自分^{じぶん}たち子ども^{こども}の世話^{せわ}をしてくれた。周り^{まわり}のサポートが手厚^{てあつ}かつたので子育て^{こそだ}はしやすかつたと思う。親戚^{しんせき}がいなかつたら子育て^{こそだ}は難^{むずか}かつたと思う。両親^{りょうしん}の仕事^{しごと}が忙^{いそ}がしいので、近^{ちか}くにサポートしてくれる人^{ひと}はいた方^{かた}がいいと思う。
- 習^{なら}い事^{こと}などの送迎^{そうげい}してくれる制度^{せいど}があつたら楽^{らく}になると思う。

○ 子育て^{こそだ}するときにあつたら楽^{らく}になりそうな支援^{しえん}はありますか。

- 親^{おや}の仕事^{しごと}は泊^{とま}りがけのこともあつたので、小さいときには親^{おや}に会^あえないときもあつた。自分^{じぶん}たちが小さいときにはなるべくそうならないように親^{おや}は配慮^{はいりよ}していたようだ。子育て^{こそだ}する親^{おや}は、子ども^{こども}が小^{しょう}学^{がく}校^{こう}卒^{そつ}業^{ぎょう}するくらいまでは「泊^{とま}りがけの仕事^{しごと}はなし」とする配慮^{はいりよ}がある社会^{しゃかい}だといふと思う。お金^{かね}の面^{めん}でも「食費^{しょくひ}や

電気代が高くて節約しないと」と言っている。こどもはたくさん食べるし、部活でもお金がかかる。食費

や部活の費用に関するお金の支援があつたらいい。収入ごとに支援をする家庭を分けるのではなく、

全家庭に一律で給付があつたらいい。子育てが少しはしやすくなると思う。

- 父が身体を痛めている中で、歩いて保育所の送迎をしないといけない時があつた。親がけがで子育てが難しいときに、治療費のサポートや代わりに子育てをしてもらえるサポートがあるといいなと思った。

- 父は小規模の会社で働いており、一人が休んだら仕事が回らないというような、休みを取りにくい環境だった。休みたい人が子育てのために気軽に休みやすい環境や、休みたい人の周りの人も気持ちよく「休んでいいよ」と言える環境が必要だと思う。そういう意味で、産休・育休をとった人がいる

職場の給料が何割増しかになる制度があつたらいい。休む人も、自分が休んでも周りの人の給料が

上がるということがあれば気持ち楽になると思う。自分の親も給料が同じなのに、周りの人の仕事

が休むことで増えてしまうということを気にしていた。休んだ人の分の仕事をサポートする職場の人の

給料も上がる仕組みがあるといい。人情だけではなく、目に見える成果のようなものがあるといい。

- 親に学校に迎えに来てもらうことが多かった。両親は仕事を途中で抜けるのが難しい。こどもが体調

を崩したときに、親がすぐに迎えに行きやすくていい制度があるといい。両親の都合がつくときは迎えに

来てもらえるが、都合がつかないときは体調が悪いのに保健室で待たないといけないときもあって、

体調も気持ちもしんどかった。親が早く迎えに行けるようになれば、こどもの体調にもいいことだと思う。

○大人になったとき、仕事、子育て、家事、そのほか、の中でどれを大切にしたいですか。10 ポイントを持

っていたら、そのポイントをどう振り分けますか。



- 仕事 5、子育て 2～3、家事 2、その他 0～1 かなと思った。やりたい職業を色々考えていて、趣味も仕事に重なりそうなので、仕事を中心にしたい。子育てのポイントが少し低いが、両親が共働きでも、親の職場の人や近所の人など、両親以外と接する時間が多く楽しかったし、親も子どもお互いから自由でいられる時間があつた方がいいと思うので、親が必ずしも子どもの全てを見ていなくてもいいと思う。子どもにとっても色々な保育士さんや近所の人をはじめとした大人や同世代の友達、多種多様な人との関わりが必要だと思う。自分は自らの生育環境から「親は子どもにあらゆる世話をして子どもの人生の全責任を背負う」ような意識は低いので子育てを低めにした。仕事と子育て・家事のバランスをとるために、乳幼児期はおむつなどの必需品が現物支給されたら、親が必需品を買いに行ったり、どれを買うかを考えたりする時間が減っていいと思う。家事に関しても、今は便利な家具や家電がたくさんある。そうした家具・家電が買えたら家事が楽になるので、安く買えるような支援があるといい。
- 仕事 3、子育て 3、家事 3、その他 1 にした。生活するためにはお金が必要なので仕事は大事。

仕事と同じくらい子育ても大事。家事は生活する上で絶対やらないといけないので、これも大事。そのほかは、仕事や家事をしたあと、リラックスする時間も必要なので1とした。仕事と子育てを両立するために、親が仕事の時間を朝や夜に自由に動かすことができるようになるといい。

- 仕事4、子育て2、家事2、そのほか2という感じ。仕事が大事。今の政治は良くないと思っており、政治の仕事をしたいので仕事を高めた。ただ、いまは独身なので、結婚したら価値観が変わるかもしれない。仕事と子育て等の両立のためには、お金より支援のパッケージのような形で物を支給する方がいいと思う。
- 仕事4、子育て3、家事2、そのほか1にしたい。やりたい職業が定まっていて、その仕事はやりがいを感じられるものという前提である。いま、どのような職種でも育児をとるのは女性が多いと思う。育児の間に男性と女性でキャリアに差が出てしまうのは疑問に思っているので、自分が仕事をするときはサポートしてもらいながら自分のキャリアも大切にしたい。子育てに関していうと、自分は家族の転職で各地を回った。親戚が周りにいない環境だったし、友達もできにくかったり、友達と仲良くなっても転園したりということがあった。なので、親との時間がすごく大切だった。だから自分が親になったときは子育ても大切にしていきたい。家事については、自分一人で暮らしていても家のことができていないと思う。例えば洗濯や掃除ができていない状態で何か別のことをするのはモチベーションが低くなるので、家事もある程度大事。そのほかについては、仕事や子育てが充実しているのであればそれほど重要でなくてもいいかもしれないが、仕事や子育てだけが大事というわけでないと思うので、そのほかにもポイントを入れた。自分がなりたい職業は、新しいことを常に学ばないといけない。そのた

め、仕事と子育てなどを両立するためには、キャリアのために勉強できる時間が取れることが大事。

支援策として拳がっている現物支給について、こどもによって大切なものや好みが違うと思うので、そ

の配慮をした上であれば現物支給をした方が買い物の時間が減るのでいいと思う。仕事と子育ての

両立について、産休・育休で仕事を長期間離れることによってキャリアのロスがないようにしたり、以前

やっていた仕事や企画から遠ざけられないようにしたりする支援があれば両立ができると思う。出産や

育児のために体調面で仕事ができないこともあるかもしれないが、完全にキャリアを中断してしまう、

仕事をしなくなってしまうということにならないように、例えば週1～2回でも育休をとる人も仕事ので

きる環境がつかれるといい。さらに、そうした働き方を受け入れてもらえるような職場環境をつくることが

大事だと思う。子連れ出勤できたり、職場に子どもを預けても安心して子どもを見てくれる人がいるよう

にする環境をつくっていくことで、親が子どもと仕事の両方に関われるようにできるといい。

- 仕事2、子育て3、家事1、そのほか4としたい。趣味があることで勉強のやる気がでたり、つらいこ

とがあっても心の支えになったりしている。趣味のおかげで自分があると思うので、そのほかという部分

を一番大切にしたいと思った。仕事について「これをやりたい」ということは決まっていないが、大切だと

思っている。子育てについては、こどもとのコミュニケーションは必要で大切にしたいと思ったから、仕事

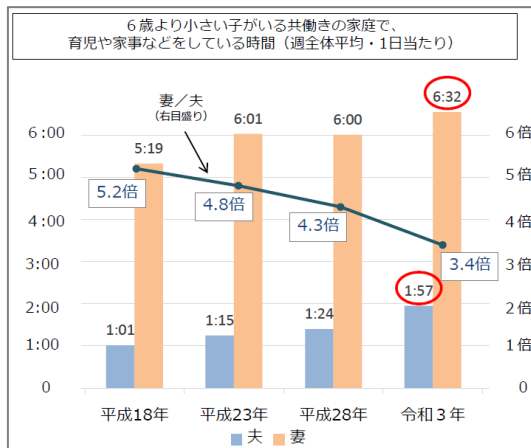
よりポイントを高くした。家事は、自動掃除機など、便利な家電を揃えていけばいいと思った。子育て

に関しては、会社や会社の周りで子どもを預けられるところを今よりも増やして行って、親が通勤すると

きに子どもと一緒にいければ、親子で話せるので関わりが増やせると思う。便利な家電に関しては高

いと思うので、育休に入ったときに家事の負担が減らせるよう、金銭的な支援があるといい。

- 夫婦の家事の時間のグラフを見て、便利な世の中になっているはずなのに家事の合計時間が増えて
いるのが気になった。男性も家事に参加しているのに大変なことが増えているのはどうしてだろうか。
家庭で必要以上にこどもの面倒を見ないといけなとか、いい教育のために幼児教育をしないといけ
ないとか、家庭で考えることが多くなっていると推測している。便利な世の中なので、親は色々なもの
に頼るなど、選択肢を広げていいと思う。社会の雰囲気や啓蒙的なことで「家庭だけが子育てに
責任を負う必要がない」と知らせていけるといい。親が放課後の生活も見ないといけなという
雰囲気があると思うが、親は仕事をしていると、こどもに何かあっても駆けつけられないこともある。例
えば、街中に監視カメラを入れて、人気の遊びスポットにこどもがいたら親が監視カメラでこどもを見ら
れるようにするなどして家庭の負担や責任を減らしつつ、親がこどもをきちんと見られる環境があるとい
いと思う。



- 小学生のころ、朝方に地震があって、学校の体育館に避難した。親は仕事を優先しないといけな
職種だったので遅くまで来なかった。きょうだいと最後まで体育館にいたのが怖かった。ご飯もなくてお
なかも空いたし、先生も忙しくて近くでは見てもらえず、いつ親も来るか分からず、不安だった。緊急

事態があつたときには職種にかかわらず、こどものことを優先して良いという社会になつた方が良い。やはり親が迎えに来てくれるのが子どもにとって一番良いことだと思う。

- 小学校や中学校は親の就業時間よりも早く終わってしまうので、例えば小さい子どもがいる家庭には習い事の行きだけでも助けてくれる制度があるといい。そうすると親は送りをする必要がなくなるので、その間でも仕事に集中できる。こどもが移動した、という通知があつたら安心できるし、親が習い事のために抜けて職場の人に迷惑がかかることもない。金銭的にもガソリン代が半分になるという面もある。無料でなくてもよいので、そういう支援があるだけで放課後の子育て環境はだいぶ変わってくると思う。
- 国は、幼児や小学生は「小さな子ども」と注視して支援に向けて動いてくれるかもしれないが、中高生にも不安はある。施策を進めるうえで、年齢が低いからという視点だけでなく、中学生には中学生、高校生には高校生の悩みがあると思うので、年齢だけ見て支援をしないということがないようにしてほしい。中高生はむしろ行動範囲が広がるという意味で、何か支援を考えてもらえるといい。

以上

4班（高校生世代2名、社会人世代3名）

テーマ：地域子育て支援、家庭教育支援について

○子育てに対して、どんな支援があると良いと思いますか。

- 子育て全般の情報にアクセスしづらい。ホームページの完成度も自治体によって差がある。自分の地元の子育て情報が載っているホームページは、自分が子育てのどのフェーズにいて、どの情報が必要なのかが直感的に分かりやすいが、今住んでいる地域のホームページは何の情報があるのか分かりづらい。スマホやパソコンが得意な自分でさえ情報を得づらいため、機器の操作が苦手な方や時間が無い方はせっかくいい情報があってもアクセスできないと思う。
- 現在は子どもが欲しい段階なので、求める情報は幼少期の子育てについてが中心である。会社の先輩から聞いた話や自分で集めた情報を踏まえると、子どもが赤ちゃんの時の援助は手厚い印象がある。しかし、子どもが小学生になってからは、小1の壁に対する支援や育児中の企業の時短制度を見ても、幼稚園生の時に比べ支援が充実していない。子どもが小学生になってからは学童に頼るほかないが、子どもが幼稚園生の頃ほどは預かってもらえないと聞く。自分が仕事を続けられるか、子どもの可能性を広げる習い事の送り迎えをできるか、不安視している。習い事の送り迎えを支援してくれるような事業があればうれしい。愛知県内のある市町村で習い事の送り迎えと託児所の事業が導入されたようだ。自分の住んでいる市でも導入してほしい。
- 自治体によって子育ての政策が異なることがストレスになっている。子育て支援を受けるための書類を里帰り先で提出する必要があったが、現在住んでいる地域と里帰り先の書類が違った。里帰り先には住所がないので支援制度が利用できなかったことが残念だった。
- ネットの普及により子どもは幼少期から様々なコンテンツに触れると思う。あるテレビ局の番組を見ていたら、自身が幼少期の頃に見ていたものとは全く違った。昔に比べてコンテンツが増えた分、健全な発達の弊害になるようなコンテンツがあるのも確かだと思うので、子どもが小さいうちからネットモラルを覚える場を設けた方がいいと思う。
- 自分が子どもの頃は高校生になって初めてスマホを持つ子がほとんどだったが、今の子どもたちは幼少期からスマホで動画配信を見ていたりする。自分の子どもが幼稚園生や小学生になった時にスマホが欲しいと言ってきたらどう対応しようかと悩んでいる。
- 実現できるかは分からないが、インターネット掲示板を運営している企業などに対して、形だけの利用規約ではなく「これに違反したら掲示板を止めますよ」などと厳密に制限をかけてもらい、子どもを守る必要がある。顔が見えないからと言って暴言等を投稿してはならないと思うので、年齢によらずみんなが安心してネットを使えるような環境を構築できる制度が求められると思う。
- 宿題の内容が分からず、親に教えてもらおうとしても仕事で不在の場合はボランティアの人が教えてくれる制度を充実させたいと思う。制度自体はあるが、知っている人が少ないので広まってほしい。
- 塾に行きたくても行けない子もいると思う。気軽に勉強を教えてくれる場所があれば、学校外での教育格差は無くせると思う。

○子育て世代に対して、どのような経済的支援が必要だと思いますか。

- 現在育休中である。保育士の資格を取るくらい子どもが好き。子どもがたくさん欲しいと思っているが、仮に共働きであっても、3人子どもを産んだら3回育休を取る必要があるという心理的・金銭的ハードルがある。進学する上で塾代・学費・下宿代がかかるので、金銭面は出産する上で特に課題だと感じる。共働きだと年収1,000万円を超えと思うが、一定の基準を超えてしまうと支援が減ったり無くなってしまうことも多いので、年収制限については考え直してほしい。
- 子育て支援という名目で商品券をいただくこともあるが、余計な仲介マージンを発生させずに子育て世代に現金が届けばいいと思う。
- 出産する時にかかる金額は全国的にあんまり変わらないと思う。
- 0歳から2歳の保育料に関して、収入によっては月5万から6万ほどかかるが無償化してほしい。また、子どもが大学を卒業する22歳まで支援が欲しい。
- きょうだいの部活動や進学にお金がかかってしまうので、支援してくれる制度があつたらいいと思う。
- 金銭面では大学進学が一番気になっている。自分の弟が進学する時の家計を見ていたので余計不安になってしまう。子どもが2人ほしいと思っているが、金銭的に難しいのではないかと考えており、共働きで子ども2人すら育てられない現状は問題だと思う。教育にお金をかけるようになった世の中の風潮もあると思うが、きょうだいのせいで進学を諦めたり、進学先を下宿代がかからない地元にしたりしないといけないなどの不自由がなく、進路を選択できるようになってほしい。
- 正社員になって歴が浅く、年収も少ない20代半ばで出産をしたので、おむつ代やミルク代などの生活費ですら払える不安である。保育料の無償化や給食費の無償化がされたらうれしい。出産費用に自己負担で35万円近くかかったことに加え、一度流産をして出産に至らなかったにも関わらず、妊婦検診代が自己負担であることは問題だと思う。ここ数十年で所得制限や扶養控除など様々な制度が変更されていて、不確実性の高い子どもの将来のことを考えると不安になり、子どもを産めないという現状に繋がっていると思う。保育料や給食費の無償化に加え、扶養控除の復活、妊婦検診費用の無償化などの制度を用意してほしい。おむつなどの必需品に関しては、補助が無かったとしても消費税8%くらいにはしてほしい。商品券や現金など、形は特に問わないのでもらえるものなら何でもいいので欲しい。どんなふうに使われるかわからないと思われるかもしれないが、現金での給付が望ましい。
- 現役の高校生で進学を考えている。学校側が学費免除の制度などを提案してくれるが、条件を満たすための資格取得などにお金がかかったりして、結局、制度の対象外になってしまっている。県単位ではなく国が統一で学費免除などの制度を設ける方が均等にチャンスが与えられるのでいいと思う。

○自治体ごとに子育て支援が異なることについてどう思いますか。

- 東京都はお金を持っていて都知事も子育て支援に対して意欲的なので、地方に比べて支援が充実していると感じる。東京の水準に地方が合わせようとお金が必要だと思うので、東京と地方の水準を合わせるために、国が資金を援助すればいいのではないと思う。

○その他設けてほしい支援制度はありますか。

- 保育士の資格を取ってから保育士の給料が低いことに気づいたので、待遇改善をお願いしたい。待遇改善によって保育士が増え、結果的にこどもが保育園に入りやすくなることにつながると思う。
- 保育園の数の確保と保育の質の向上をお願いしたい。昔と比べ保育園が増えて入所しやすくなったが、自治体によってはまだ待機児童がいると聞く。待機児童という形にはなっていないくても、例えば、家から仕事場への方向と真逆に保育園があり 30 分ほどかけて通園しているという職場の先輩の話聞いたことがある。月 5、6 万円の高い保育料を払い、時短勤務の中で時間をかけて通園すると収支としてはゼロになる。入りたい保育園に自由に入れるようにしてほしい。
- 生理用品が軽減税率の対象外で税率 10%が適応されており、複数の自治体から反対する意見書が出ているが国があまり対応していないことは問題だと思う。

また、日本では理系学部に進学する女子が少なく、進学を推奨するために優遇しようという話が出ている。理系学部を志す女子が少ない根本的な理由のひとつに「男は仕事、女は子育て」という昔からの風習があると思う。

女子だから優遇するというのはずれていて、優遇によって女子が理系への進学を選択しても、周囲からの制度利用での陰口は容易に想像でき、女という表面的な情報だけで優遇する措置は、ジェンダーバイアスすなわち、社会の色眼鏡に対して、短絡的で誰も幸せにならない対応だと思う。

日本が男女平等に力を入れて対応していることを示したいがための材料にされている気がする。

○将来、自分が親になった際に子育てに関してどんな情報が欲しいですか。

- 事前説明会で言及があった「家庭教育支援」のホームページに違和感があった。国としては教育方針に口出しせず、困っている家庭に対して支援をするというスタンスを取っていると思うが、最低限の教育は親がして、こどもがしたことは親の責任であるという考え方が根強いなと感じた。こどもは社会みんなで育てるものだという考え方がもう少し広まってもいい。社会的マナー・倫理・しつけなどについて書いてあったが、やるものがたくさんあるのに全て家庭の責任になるような表現に感じた。
- 社会全体で子育てを見守り、支えていくのは後の世代のことを考えても大切。社会全体で子育て世帯をサポートできる体制・風習が日本に根付けば、より価値ある政策が提案されていくと思う。
- 子育てイベントの開催情報がネットやチラシで配られたら、子育てを一緒にしようという考え方が養われていくと思う。こどもたちと触れ合うイベントや、育児に手がかからなくなった人が手助けしてくれるようなイベントがいいと思う。
- 自分は子育てに関する情報が載っているチラシなどにアクセスできている方だと思うが、地域によっては自分で調べないととどろ着けない人はいると思う。情報の内容よりも情報のアクセスに課題があると感じている。ホームページが見つらなくて読むのを諦めてしまうので分かりやすくしてほしい。こども家庭庁のホームページも拝見したが、「健康日本 21」というページに繋がり「なんだこれ」と思った。結局こども家庭庁が何をしているところなのか分かっていない。

また、地域全体でこどもを支えることについてイベントがたくさん開催されているが、大体は民間が主催しており、国や自治体の支援は少し方向性がずれていると思うことがある。例えば、出産前の妊

婦面談からこどもが 1 歳になるまで助産師さんが面談に来てくれる伴走型支援が始まったと思うが、家に来るとなると片づける必要があるし、めんどくさい。もっと子育て世代の現場の声に寄り添った支援をしてほしい。

- 情報のアクセスについて、「こども白書」について意見を集めるアンケートが来ていたが、そもそも探すが難しすぎと思った。自治体が出している情報は探しに行かないとアクセスできないものが多い。もう一つ、子育て世代の人で地元から離れて子育てをしている人と、自分の近くに親がいる環境で子育てしている人とは環境がだいぶ違うと思う。地元から離れた場所での子育てはとても大変で、こどもに何かあった時に誰にも頼れないし地元のネットワークもない。ベビーシッター制度等が整えられている自治体もあるそうだが、いざとなったら頼れる第三者がもっと増えてほしい。
- こどもの出生届を出すとき、出産した自治体で出すか、住民票がある自治体で出すかで悩んだ。出生届を出すまでの日数が限られているのに、証明書やこどもの母子手帳の原本がないと出せず、出生届の提出が遅れたせいで児童手当が 1 ヶ月分もらえなかった。出産した自治体・住民票がある自治体のどちらのホームページにも詳しい手続き方法が載っておらず、市役所の方も理解していなかったので情報が得づらかった。
- 子育てを地元ではないところでやっているが、こども用のトイレや授乳スペースがどこにあるのか全く分からないので、できれば子育て用のマップにアクセスできるようにしてほしい。商業施設等に対して、子育てにやさしい施設であるという国や自治体が承認を与えてマップに掲載してもらえれば、家から出る機会が増えて子育て世代はとても助かると思う。
- 転勤したため全く知らない土地で生活をしているが、近くの保育園や支援センターの場所が分からなかった。民間が提供しているマップと連携して分かりやすく表示してほしい。
- 旅行先など初めて行く場所で、こどもが泣き始めたりした時に対応できる場所を迅速に調べられるようになると良いと思う。

○子育てに関するホームページに求める特徴はありますか。

- 地元の市町村のホームページに子育て支援に関するページがある。妊娠中や出産後などのライフステージごとに情報が分かれているので分かりやすい。制度名が書いてあっても漢字ばかりだと読むのを諦めてしまうので、「申請したら 5 万円もらえます」などと書いてあったら興味を引くと思う。

○どういう媒体だとアクセスしやすいと思いますか。

- 情報が目的別になっているのは大事だと思う。子育てしている人の中にも、専業主婦・共働き、子育て世帯の親が近くにいるか、シングルマザー・シングルファザー、などたくさんの種類の人がいるニーズが多様化している。ニーズに沿った情報が得られるように項目分けが必要だと思う。
- 支援内容によって担当省庁や担当課が異なると思うが、福島県や福島市のホームページを見た際に、たくさんある情報から必要な情報を見つけ出す作業をこちらに委ねているような形式だった。組織をまたいで情報をまとめ、様々な情報を求める人が異なるルートで目的に沿った情報にアクセスできる体制にしてほしい。

- 低所得世帯に対して支援金給付を行う旨を通達するハガキが届くが、対象者であるかどうかは自分で確認することになっている。確認するのが大変なので制限をなくすか、対象者のみにハガキを送るなど対処してほしい。

○教育に関する情報に対して意見はありますか。

- 家を建てるにあたって小学校の学区を調べているが分かりづらい。学区ごとの情報に関しては地元だと得やすいが、知らない土地だと口コミすら得られない。口コミサイトを国がやるのは難しいと思うが、気軽に口コミにアクセスできるといい。
- 地元県内で家を建て終わったところだが、同じ県内でも地元から距離が離れてしまうと治安状況が把握できない。周辺地域について把握するために家を見に行った時に地元の方に話を聞いたりした。年代構成や公園があるかなど、どういう雰囲気地域なのかがわかるようにしてほしい。
- 学区に関する口コミサイトの中に制服や給食の有無などの詳しい情報が載っていたらありがたい。
- 生きていく上で必要不可欠なお金に関することは、若いうちから自発的に勉強するのは難しいので教えてもらえる機会を作してほしい。学校の授業や金融機関のCMなどで見てなんとなく知っているだけでも全く知らないよりはマシだと思う。
- 家庭科の授業で税金などに関して教えてもらったが、表面的なことだけでさっさと終わってしまった。
- 留学に行きたい学生に関して、高校生などは自分で調べていけるかもしれないが、情報のアクセスの仕方に悩むこともあると思う。中高生が知りたい情報は親へ届けるというより本人たちに届くような発信の仕方が必要だと思う。ポスターだと見逃してしまうかもしれないので、情報を得やすいおすすめのサイトなどがあつたらいい。
- 災害時のボランティア経験がある。旅費無料で被災地に行くことができる仕組みがあつたが、調べ尽くさないと出てこなかった。何かしたいと思いついた時に閲覧できるものがあればいいと思う。
- 学校にもポスターが貼ってあるが、みんなじっくり見たりはしていないので、個人に配布されるプリントなど、学校から生徒全体への情報発信がほしい。
- こどものうちから性教育をした方がいいと思う。女性は妊娠が自身の体に関わることなので自分で調べるし女性同士で情報共有をと思うが、男性は特段調べないし学校でもほとんど教えてもらえない。奥さんに何かあった時に何から調べたらいいか分からなくなると思う。小中学校で知識のベース部分だけでも教えてくれたら、調べ始める時のきっかけとなるワードにアクセスできると思う。教育をしてくれたら、妊活・出産時に男女問わず周りからの助けが得やすくなると思う。
- 地元の市町村が「あかちゃん訪問」を行っており、赤ちゃんとお母さんが中学校へ訪問し命に関して子どもたちに伝える場を提供していることを出産後に知った。具体的な性についての内容ではなくてもいいので、命の仕組みや赤ちゃんを育てる楽しさ、大変さを小中高生に伝える事業を国が主導してやるのがいいと思う。

以上

5 班（大学生・大学院生世代 1 名、社会人世代 4 名）

テーマ：こどもの貧困対策について

○日本に住んでいるこどもの場合、どうい状況だと「貧困」の状態にあると考えますか。

- 実際に貧しいかどうかに関わらず、こども自身が貧しい暮らしをしていると実感すること。社会に出て初めて自分は裕福な家庭で育ったんだと知った。これまで親からは「うちはお金がないから国公立大学しか行かせられない」などお金について言われてきたため、やりたいことがあっても我慢する時があったが、本当にお金が無かったらもっと我慢することもあったと思う。自分が貧困かをどのように感じるかは、こども自身がどのような状態を貧困だと思っているのかに紐づいていると思う。
- 経済的資源や周りに助けてくれる人がいるかどうかという社会的資源や、ピアノなどの文化的な資源も貧困に関係する。こういった資源を多く持っている状態が「貧困ではない状態」で、これらの資源が欠けていくと貧困につながっていくと思う。生活する上で色々なものの選択肢があるかが重要だと思う。
- 親が看護師で長時間働いていた。「親は大変なんだな」と思うと同時に、「自分にできることは無いな」と思いながら過ごしていた。
- 持っている選択肢の数は貧困状態と関係していると思う。
- 親がこどもに選択肢を与えることが多いが、親だけにこどもの選択肢を増やす責任を持たせることが良いのかは疑問に思う。親との関係だけだったらもらえることが無かった美術館などの招待券は知人にもらって無料で行くことができた。選択肢があるかどうかに加えて、貧困状態を考えるうえで人との「つながり」も重要だと思う。
- 無料で活用できる文化的なものは税金でまかなわれていることが多いが、無料だからといって誰もが使おうとは思わない。利用に際しての手続きが必要だと文化的活動を重視している裕福な層にしか届かない。
- こども食堂でご飯を作っていて、「こどもたちが食べたことがある食材・知っている食材がとても少ない」ということを感じた。「もやしが良い」と言う子が多い。コンビニやチェーン店で提供されるものは好んで食べてくれるが、ミョウガやナスなどの季節の野菜を使った家庭料理などは、味の想像がつかないのか全部残されてしまう。こどもたちが見慣れている料理に季節の野菜を少しだけ入れて食べてもらう。食材選びのように、生活していく上での小さな選択肢も貧困に紐づいていると思う。
- 給食だけでは食育の役割を果たしきれてないのかもしれない。
- 現在外国に住んでいる。住んでいる国でも値段が高い野菜と安い野菜で分かれているが、値段の違いが分かり経済的な判断ができることは資源そのものだと思う。「明日食事にありつけるかどうか」というレベルではなく、食材の栄養素を考えて食事をするという思考回路があること自体も資源だと考えている。夏休みなど学校から給食が提供されない時期は、経済的に食事が満足にとれず苦しい家庭もあるというニュースを見たことがある。対応が必要だと思う。

○やりたいことができないという経験をしたことはありますか。

- 20 歳になってから自分の家に思っていたよりお金があると知ったが、それまでは親からお金がないと言われ続けていた。インターン先で会ったイギリス人の方が留学に誘ってくれて、奨学金も提供してくれ

るということだったので、両親に留学したいと伝えたとところ許可が出た。意外にお金があるんだと思った。

- こどもの頃は自分の家庭を裕福だと思っており、やりたいことができなかったという気持ちはあまりない。おもちゃを買ってもらえなかったことはある。

○自身の家庭が裕福だと感じたきっかけは何か。

- 家にピアノがあったので裕福なのかもしれないと思った。
- 私の家庭でも両親から「国公立大学に行って欲しい」「お金がない」という話はされてきたが、水泳や学校の部活など自身がやりたいことをやらせてもらった。自分の親が裕福ということではなかったかもしれないが、二世帯住宅で育ち、祖父にもお金を出してもらえることが多かった。全体を見ると裕福だったのかなと思う。

○親がこどものために全てをまかなう必要がないとすると、どのような援助があるといいですか。

- 自分は共働きなので、手の込んだ料理を作る時間がない。作り置きができない料理を作ることが難しいので、学校給食では季節を感じられる料理を増やして欲しい。現在保育園を探しているが、市の栄養士が立てた献立を提供しているところもあれば、園の栄養士が立てた献立を提供しているところもある。自宅で圧力鍋などの調理器具を買おうという発想にならず、肉じゃがなどもなかなか作る時間がない。給食など行政が提供してくれるもので補うことができるとこどもが色々な食材を知る機会になのではないかなと思う。
- 親だけでなく、親戚や職場の人にも頼れたら良いと思う。自分が小学生の時、親が外出するときは親の同僚の人が面倒を見てくれて、親は「とても助かった」と話していた。

○周りの頼れる人を思い浮かべて考え付く人は誰ですか。

- 自分の両親は頼ることが出来る。以前、夫婦でコロナに罹患した時は両親に物資の支援を依頼した。義理の両親とも仲良くしているため、色々な情報を提供してもらったり、義母の知り合いから支援をしてもらえたりする。両親や義理の両親との仲がそこまで良くないという人の話も聞く。両親であれば気軽に頼れるが、友人だと難しい。
- 友人夫婦にこどもが生まれたのをきっかけに友人の家の近くに引っ越しをし、週に1回くらい様子を見に行っている。近い距離感ではあるが、日々頼られてはならない。頼れる人がいることと実際に頼れるのかどうかは別である。日本人は「自分のことは自分でしなさい」「人に迷惑をかけてはいけない」と言われて育った人が多いので、行政で色々な支援を用意していても、言われてきた意識のせいで拒否されることにつながる。

○周りを頼ることについてどう思いますか。

- 自分は海外留学をしており、大学から留学生宛てに精神状態を心配する文言と相談先が記されたメールが定期的に届く。また、大学が無料の朝食を提供していることを伝える連絡も届いた。親族や知人がいない環境で、唯一のつながりである大学から連絡してくれるのがありがたい。

- 今まで血縁・地縁でまかなわれてきた育児や介護などのケア労働をどこまで委託できるか、他の関係性でカバーできるかということが重要だと思う。
- 何かあった時に親をあまり頼れる状況ではなかったのも、より学童が拡充されたいなと思う。困った時にはインターネットで色々と検索したりしていた。
- 母が4人きょうだいで仲が良く、近くに住んでいる叔母もいて、いとこ同士の関係性も構築できていたため困った時は親族を頼ることが出来た。

○支援が必要な子どもが、子ども食堂に繋がる（参加しやすくなる）ために、どんなことが必要でしょうか。

- 子ども食堂を周知するポスターに場所や時間のみを載せるのではなく、もっと実際の雰囲気や伝わるような工夫があると、子ども食堂に行くまでのハードルが下がると思う。
- 普段よく行く場所で用事を済ませつつ、ご飯を食べられるという形式だと行きやすくなりそう。
- 今通っている大学では、普段使っているカフェでフリーミールを提供してくれており助かっている。
- 信頼している場所が食事を提供していると、怪しむことなく利用しようと思える。
- 家庭の経済状況によっては「子ども食堂を活用したいがしてもいいか分からない」という保護者もいる。社会的つながりの形成や居場所づくりの側面は欠いてしまうかもしれないが、場所と時間の制限がある子ども食堂関連の施策に加えて、チェーン店の無料チケットを配るなどの支援をしても良い。
- 子ども食堂は利用したことがない。何かのついでに利用できるようにしたり、学校で周知したりすることは必要だと思う。子ども食堂がただ単に食事をする場所ではなく、地域の交流ができる場であることを周知できれば、友達同士で誘い合っていくなど交流の輪が広がっていくのではないかなと思う。

○金銭的に困っている家で暮らしている子どもや家族などが、困りごとを悩み続けられないために、どのような助けが必要だと思いますか。

- スクールカウンセラーが充実すると良いと思う。
- 可処分所得を増やして欲しい。子ども食堂へのアクセスは、地域とのつながりを持ってもらうという観点や放置されている子が犯罪に巻き込まれないようにする観点から重要だと思う。行政がより重点的に取り組むべきだし、そもそも食事に困らないだけの所得を国民が得られるように支援すべきだと思う。
- 子どもはいないが自分が生きていくのに精一杯なところもある。困った時に誰かを頼ることができるという点をもっと発信したほうが良い。少子化が取り沙汰されており、子どもを産んで欲しいという社会的プレッシャーがあるにも関わらず、「子どもを産んではいけないかもしれない」と感じるようなニュースが多い。
- 学生生活を過ごすだけでは安心できる居場所の存在を知るきっかけがないということもあるので対策してほしい。身内以外の方が自分の話を聞いてくれる場所が学校と連携された形であると良い。
- 子ども食堂は実際に見たことも使ったこともない。また、使ったことがある人にも会ったことがない。
- 子どもを安心して育てることができるということが大事だと思う。高校生の扶養控除が縮小されるというニュースを知りショックを受けたので、扶養控除は充実させて欲しい。

以上

6班（高校生世代1名、大学生・大学院生世代2名、社会人世代3名）

テーマ：子育てや教育に関する経済的負担の軽減について

○0歳から2歳の保育料を0円にすることについて、どう思いますか。

- 私は、0歳～2歳が通う小規模な保育園を運営している。保護者から0歳～2歳の保育料について話を聞くことが多い。保護者の立場としては、年齢によって保育料を区別する必要性が不明確であり、保育料を無償化することはいいことである。

一方で保育園の経営者からすると、保育料を無償化しなくてもいいと思っている。テーマ資料の「0から2歳の保育料（月額）について」のように、保育料は世帯年収に応じて決まっているので、負担感はそこまで大きくなく、個人で負担する分と国で負担する分のバランスはとれていると思う。保育料を月額104,000円払う人と、月額19,500円払う人の生活の余裕度は異なるので、保育料を無償化することは高所得者の優遇になるのかもしれない。

こどもまんま こども家庭庁		0から2歳の保育料（月額）について
○ 国が定める利用者負担の上限額は以下のとおり。		
区分	利用者負担	
生活保護世帯及び市町村民税非課税世帯（～年収約260万円）	0円	
所得割課税額48,600円未満（～年収約330万円）	19,500円	
所得割課税額57,700円未満（～年収約360万円）	30,000円	
所得割課税額97,000円未満（～年収約470万円）	30,000円	
所得割課税額169,000円未満（～年収約640万円）	44,500円	
所得割課税額301,000円未満（～年収約930万円）	61,000円	
所得割課税額397,000円未満（～年収約1,130万円）	80,000円	
所得割課税額397,000円以上（年収約1,130万円～）	104,000円	

※1 保育標準時間（11時間の預かりが可能）の場合。
※2 ひとり親世帯、在宅障害児（者）のいる世帯、特に困窮していると市町村の長が認めた世帯、きょうだいがいる場合などは上記の額から減額。
※3 自治体により独自の減免を行っている場合がある。

また、保育料は世帯年収によって決まるため、子育ての当事者である父母の年収が低くとも、祖父母の年収が高いと保育料が高くなる場合がある。祖父母は子育て当事者ではないこともあるので、子育てのためにお金を捻出しているかは家庭によって異なると思う。2世帯で同居をしていますが、家計を別にしていない人が多い感覚である。保育料を無償化すると、祖父母の年収も世帯年収に含まれてしまうという事態を解消できるのでその点では賛成。だが、どの世帯に対しても保育料を無償化にするという点では、保育料の無償化について反対である。

- 私は妊活中なので保育園は身近に感じている。職場に、4月から1歳の息子を保育園に通わせ

る人がいて、保育料が高いとよく聞く。私の職場では共働きの世帯が多いが、共働きの世帯は保育料が高いという話をする。保育料が高いので、せっかく働いても手元に残るお金が少ないと聞く。こどもが2人いる場合は、こどものために働いているのに、収入のうち2人分の保育料がほとんどを占めるという話も聞く。保育料はもう少し安くなってほしい。

- 保育料の負担額は世帯年収によって決まるが、若い時にこどもを持つ人や40歳頃でこどもを持つ人など様々である。年齢が高くなるにつれて年収も上がることが多いので、年齢が高い時にこどもを産む人ほど保育料が高くなり不利になっている。こどもを持つ時の世帯年収で保育料が決まるのはナセンスだと思う。保育料の負担額は世帯年収以外にもっといい考え方はないのかと思っている。
- 保育料を全て無償化してほしいという声もある。育休を取得してから一年を過ぎると、育休手当（育児休業給付金）はもらえなくなってしまう。周りからは、こどもが2歳までの間は育休の手当をもらえるようにしたり、育休取得から1年後以降も育休手当の50%分の手当を出したりしてくれるといいなという話を聞いている。保育料は一律で低めに設定してくれると嬉しい。
- 3歳以上のこどもの保育料が無償であることをこのいけんひろばの事前説明会で初めて知った。キャリアプランについて友人と話すことがあり、保育料が高いという話をよく聞いていた。しかし、3歳以上から保育料が無償であることはいいと思うので、みんなが知っておくべきだと思った。0～2歳の保育料は高いと思うので、もっと年収が高くなってからこどもを持つ方がいいのかなと思ってしまう。年収が高い時にこどもを持つとなると、高齢出産になってしまう。以前、年齢が高くなると出産のリスクが上がると論文を読んで知ったので、若い人がこどもを産めるように保育料はできるだけ安い方がいい。
- 自分の周りだけかもしれないが、0～2歳のこどもを保育園に預けている人はあまりいない。保育料を無償化しても恩恵を得る人が少ないので、無償化にしなくてもいいのかもしれない。0～2歳のこどもは家で親とふれあう時間を大事にした方がいいと思う。私は5歳の時に保育園に通っていたが、0～2歳児クラスのこどもは少なかった。保育士の配置基準は決まっているため、こどもが少ない0～2歳児クラスに保育士を置くと、ほかに保育士が必要なところが手薄になってしまう。保育園にこどもを預けている人は少ないが、ひとり親家庭の方や、実家が遠くて頼れない人、生活するためにこどもを保育園に預けてフルタイムで働いている人がいた。
- テーマ資料に0～2歳児の約4割が保育所等を利用していると書いてあり、保育所の利用者は多いと思った。そこまでこどもを預けている人がいるというイメージはなかった。また年間の保育料を計算したところ、最低で234,000円かかり、最大で1,248,000円かかるため、高いと思った。0～2歳は一番子育てに手間がかかる時期だと思う。子育てにおける金銭的な負担は保育所だけではない。子育てにおける金銭的な負担が多いので、2人目・3人目のこどもを産むことをやめておこうと考える人もいると思う。
- 保育料について、「自治体で独自に減免を行っている場合がある」とテーマ資料に書かれていたが、自治体が独自に保育料を減免するのではなく、国が所得制限を設けて減額する方が、地方自治体の財源を他の行政サービスに使えると思う。住んでいる自治体によって受けられる教育やこどものうちから受けられる保育所での教育に差が出ない方がいいので、自治体が独自に保育料を減免せず、国が所得制限を設けて減額する方がいい。

- 私の周りの人はこどもが0歳のうちからこどもを保育園にいている。育休手当はこどもが1歳になるともらえなくなってしまうため、こどもが生まれてから1年以内にこどもを保育園に預けて復職せざるを得ない人が多い。その場合、4月にこどもを保育園に入れないと復職するタイミングに間に合わないと思うので、生後半年～10か月のこどもを保育園に預けないといけな。育休手当が長くもらえると、こどもと長くられるのと思う。私の自治体ではこどもは保育園に入れない状況であり、第7希望まで保育園の希望を出しても、往復1時間半かかる場所にある保育園に入るというケースも聞いた。保育園に入りやすくなるといいなと思う。

○0歳から2歳の保育料を0円（無償化）にするよりも、優先して家庭のお金の負担を減らしたほうがよいことはありますか。

- 子育てには、おむつ代だけではなく、ミルクや服、布団、ベビーカー、チャイルドシートなどにお金がかかる。子育てに必要な日用品を買える場所で使えるクーポンを発行したり、購入したものを家まで配達するサービスがあったりすると思う。おむつなどは量が多いので運ぶのが大変である。こどもがいると外出が難しいので、家までおむつなどを届けてくれるサービスのためにお金を使うと思う。
- 子育て世帯の保育料を無償化した場合、子育て世帯には恩恵はあるが、子育て世帯以外は恩恵・還元を得られないという意見に共感した。こどもを育てたくても、経済的余裕がない人はこどもを生むことを諦めてしまう。そのような方は経済的な余裕がなく、仕事や家庭を両立することへの精神的な負担があると思う。そこで、ファイナンシャルプランナーなどのプロに経済的な悩みを相談できる環境や、精神的な負担に関して気兼ねなく相談できるホットラインがあるといい。
- 妊娠の検査費用は、病気ではないので全額自費負担となっている。病気ではないが、妊娠の検査費用の負担をなくしてもらえるといい。
- 現在、新聞などは軽減税率の対象で消費税が8%ではあるが、おむつや生理用品の日用品は消費税が10%となっている。新聞を取っている世代の優遇になっており、子育て世帯にとっての軽減税率になっていないと思う。
- 出産育児一時金が42万円から50万円になったが、出産育児一時金が増えても意味がないのではないかという意見を聞いた。出産育児一時金が増えても全国の産院で出産費用が値上げしているので、出産育児一時金は個人に還元されず、恩恵が受けられていないと思う。
- どの病院でこどもを生もうか調べたが、出産費用として普通分娩に50万円かかり、ほかにも病院の個室に12,000円、無痛分娩に20万円かかるので恐ろしい。出産費用は値上げされたと思った。
- 子育て世帯への支援策として、税金を減らしてほしい。クーポンを発行することもいいと思うが、クーポンは用途が決められているため、例えばミルクでこどもを育てる人と母乳でこどもを育てる人によって得られる恩恵は異なる。通販で使えるクーポンの場合、住んでいる地域が配達対象外のこともある。こども家庭庁ベビーシッター券が発行されるという話も聞いたが、私の住んでいる地域ではベビーシッター券は使えないのでクーポン券は善し悪しがあると思う。こどもに必要なお金は人によるため、何にお金を使うかは個人で決めたい。
- 私は働きたいけれどこどもが欲しいので、時間の節約にお金を使う子育てが理想的である。お金がか

かってもいいので、ベビーシッターを充実させてほしい。ベビーシッターに家事を任せて、仕事のあとに子どもとの時間が欲しい。働いていればベビーシッターをお願いするお金があると思う。十分な人数のベビーシッターを確保するために国のお金を使ってほしい。

- 私の周りでは、人口減少を望ましくないと思っている人が多い今までは娯楽が少なかったので子育てをすることに喜びがあり、盛んに子育てが行われていたのだと思うが、娯楽が飽和した現代では、子育てのデメリットが多いと感じる。子育てをする人にインセンティブがあるといいと思う。

○学校に通うにあたって、お金が理由で進学等をあきらめた経験や、進路を変更した経験がありますか。

○あなた自身に限らず、周りでそのような経験をしている方を見聞きしたことがありますか。

- 私は大学生なので、進路が一番身近なテーマである。私は小学生のころから薬剤師になりたかったが、高校2年生の学校の面談で学力的に自宅から通える学校は難しいと言われた。私立であれば薬学部は合格圏内だが、私には妹が2人いることから、親に「6年間の私立の学費は高いので他の学部を考えてほしい」と言われた。地方の国公立大学でも一人暮らしのためのお金もかかってしまう。結局、薬学部でなければ私立であっても4年間の学費を払えるということになり、志望学部を変えた。住んでいる地域によって学部の偏差値が違うことも問題かなと思った。
- 私は国公立の大学で学び、薬剤師免許を取り、今は自治体の職員をしている。薬学部は学費が6年かかるので、国公立大学の薬学部を志望した。私立では薬学部ではない学部を受験した。就職活動のとき大学で奨学金を借りた人は、就職の際に奨学金返還支援制度がある企業を見ていた。私は奨学金を借りていないので、企業を選ぶ際の判断基準にならなかったが、金銭的に奨学金を補助してくれる会社に行かざるを得ない人もいる。友人の中には、「奨学金を返してくれる企業に入りなさい」と親に言われた人もいた。奨学金の有無で就職先が変わる場合もあるので、金銭面で進路や就職も狭まるのかなと思った。
- 私は環境に恵まれて、奨学金を借りずに私立の大学に通えた。しかし周りには奨学金を借りて今も返済し続けている人がいる。奨学金についてはみんなが悩んでいることだと思う。
- 小中学生は義務教育なので授業料は無償だが、教科書代や文具代、友達と遊ぶときの費用などは必要である。生活保護受給世帯は給食費などは一部負担してもらえると聞いている。しかし、生活保護受給とはならない所得が十分でない世帯もあると聞く。全ての世帯を無償化する必要はないが、経済状況によって支援の幅を広げてほしいと思う。
- 私は学部4年分と大学院2年分の奨学金を借りている。親やパートナーの資金援助もあり生活自体はできているが、今後は毎月奨学金を返済することになる。将来、子どもにも私と同じように行きたい学校に行かせられる自信はない。
- 自分は大学院に行ったけれど行けない人も周りにいる。私の友人に、優秀であったが大学院まで行けず、希望する進路と関係ない分野で就職した方もいた。
- 高校や中学で進路の話をする時、妹や弟がいるから国公立しかいけないという人もいる。きょうだいの多かった知人は、防衛大学校など勉強しながらお金のもらえるところを進路として希望していた。兄弟が多いと進路が狭まるという話はよく聞く。

- 奨学金は大学入学後に使うものが大半で、志望する大学へ進学するための金銭的支援は少ないと思う。国の支援として、受験費用の補助はあるが、塾や参考書にかかる費用の補助は少ない。支援が充実していないと、後々の進路や就職先に影響して収入が減り、将来こどもにも十分な教育環境を与えられず、負のスパイラルにはまると思う。志望する進路を叶えるための費用を補助するサポートが必要だと思う。
- 私は発達障害でアセクシャル（主に性的欲求を抱かない人のこと）だから結婚もしないし子供も作らない。これは10代のときから決めていた。パートナーを作ることに興味は無かったし、ゲームなどの趣味に熱中するほうが楽しいと思う。それがすごく誇れることだし幸せなことだと思う。休みの日にカフェに行ったり好きなゲームをやったりして自分のやりたいことをとことん極めるのが自分にとって一番幸せな生き方である。
私のきょうだいは大学に行きたかったがお金がなくて行けなかった。学校に行きたくても行けない人は周りに多く、国には何も期待していない。学校に行けなくても就職したらなんとかなるので、学校に行けない人のために就職先を充実させて、ハローワークなどの就職支援プログラムで社会に出る仕組みが整えられていけばいい。社会に出るための教育は受けたいが、学校で教育を受けることは年齢的に考えていない。
- 私のきょうだいは中学生の時に不登校になり、ひきこもりになっている。住んでいる市に学習支援センターはあるが、当時は充実した仕組みはなかった。私も学校は合わなかった。発達障害に特化した教育プログラムはなかった。発達障害などこどもの個性に合わせた教育プログラムが充実していれば違ったのかもしれない。今は発達障害の診断書をもらう必要があるため、病院に通っている。
- 私の周りには高卒の方も割といる。高卒の方は、大学は頭がよくてお金を持っている人が行くところというイメージがあると言っていた。高校卒業後に一刻も早く就職した方がいいという考えもわかる。大学は学費が高いというイメージがあるので、金銭的に大学に通いやすくなるといいなと思う。
- 私は公立高校に通っていたが、お金持ちの家庭が多かった。年収が高い家庭のこどもは志望する学校のレベルが高いイメージがあった。偏差値の高い大学は地価が高い場所にあるので、周辺に住んでも家賃を払えるなど、経済力がある人が目指すからこのような傾向があったのだと思う。
- 高校によっては、校則でバイトが禁止されているところもあると思う。大学進学や交際費のためにバイトをしたい人もいる。学校で禁止されているため隠れてバイトをしている人もいる。社会人でも副業をする人は広がっている。高校生は学業がメインであるが、自治体や国がバイトをすることを推奨するという意識を持つことで高校生が経済的・心理的負担から逃れられると思った。
- 私は高校生がバイトをすることに対して推奨するのはよくないと思う。勉強するには時間がかかる。大学院生は奨学金を借りられるだけ借りて、バイトをせず研究に時間を費やしている。高校生は学びのための大事な時期なので、ここでの勉強量が足りないと、高等教育の進学率が下がって良くない社会になってしまうと思う。高校生の低い時給で働くよりも、国が高校生のために経済的な補助をした方が総合的に良いと感じる。

いけんひろば後に追加のあった意見

追加意見①：（「0歳から2歳の保育料を0円（無償化）にするよりも、優先して家庭のお金の負担を減らしたほうがよいことはありますか）について）

- 本当でしたら、0歳から2歳の保育料を0円(無償化)またはほかの支援というような「or」ではなく「and」であってほしいと思うところです。おむつ代や大学の無償化も、こどもに対して支援をしているという分かりやすいイメージになり、とても良いことだとは思いますが、私の意見としては税金や社会保険料を減らして手取りを増やしてほしい、0歳から15歳までの扶養控除を復活&拡充してほしいと考えています。特定のものに対する所得制限付きの補助金やクーポンではなく、全員に対して自由につかえるお金を増やしてほしいのです。本当にこどもに還元されているのかわからないのであれば、おむつ代や給食費や大学費用を無償化または軽減するなどしてほしいです。お金のつかいかたはこどもごとに様々ですので、何にでも使えるクーポン（＝現金）を増やしてほしいです。

いけんひろばの最後でも申し上げましたが、自分のこどもに対して、こどもが社会にでて自立していくまでの約20年間責任をもって育てられるかどうかを考えます。クーポン券や一時的な補助金を与えたと発表されても「どうせ数年したら事業自体がなくなったり縮小したり所得制限かけられたりするんだろ」と考え、子供を持つかどうか迷っている心に響きません。おむつ代だけ支援するといわれても、20年間の子育ての一瞬に過ぎないため「おむつ代ももらえるならこれから先20年の子育てをスタートさせよう」と決心できません。

事業はうまくいかなければ縮小することも廃止することもできますが、子育ては途中で子供の数を減らすこともやめることもできません。扶養控除の復活&拡充をはじめとする、所得制限のない長期間の減税など、持続性のある支援を必要としています。

わたしは妊活中かつ不妊治療を行っています。不妊治療が保険適用になってからスタートし、10割負担の場合と比べて経済的負担が軽くなっていることがわかりとても感謝しています。不妊治療が保険適用になったことがきっかけでわたしたちは不妊治療を始めました。これは、保険適用化は数年やそこらで変わることはない持続的な取り組みだと感じたからです。国は本気で取り組んでいるという意思を感じたから安心して不妊治療をスタートすることができました。

こどもは勝手に産まれてくるものではなく、明確な決意で産むものだと考えています。わたしたちは政策を通して国がどうしたいのかのメッセージを感じています。不妊治療の保険適用化を通して、本当はこどもが欲しいけど妊娠できないひとに産みやすいように支援しようというメッセージは感じました。しかし、産まれたこどもに健やかで幸せに育ててほしい、親にはこどもを安心して育ててほしいというメッセージは感じられないのが現状です。結婚当初は子供は2人と考えていましたが、現在の状況で責任をもって育てられるのは1人までかなと夫婦で考えています。現在不妊治療中ですが、1人目でさえ子育てに関する経済的負担が不安でいつ不妊治療は辞めようかも考えています。

こどもを20年間責任をもって育てていけるような、持続性のある政策を求めています。

いけんひろばの中で、年収が高く生活に余裕のある方に多い金額の負担をしてほしいという話があったかと思います。いけんひろばでの「2世帯住宅に住む年収の高い祖父母のために、世帯年収が高いと評価され高い保育料を負担している家庭の話」にもあったように、世帯年収だけでは実際の家

庭状況が正しく判断できていないと思います。年齢や家族構成で支出も家庭それぞれだと思いますし、世帯年収だけで「生活に余裕がある」と判断されるのは短絡的すぎると思います。

追加意見②：

- 大学無償化もいいけど特定の分野を学びたい人、就職したい人は専門学校に行ったりする。専門学校は学費が高いけど、助成が出ないから出るようにしてほしい。
大学に行けば、人生の自由度が上がるし、給料高いし、幸せだけど、中卒で社会に出るしかない人は給料低いし、幸せじゃないみたいなのは違うと思います。それでも経済的余裕とか学歴に関係なく学びの手段がいっぱいあって、就職できる会社や行ける業界がたくさんあるほうがいいと思うな。
世界はゲームでいったら本来オープンワールドのゲームなのに、今の日本はファミコン時代にできた分岐無し的一本道のRPGをひたすら何周もやってる感じがする。

いけんひろば後のアンケートでいただいた意見

- 産後ケアは最長でも1歳までのところが多いので、育児ケアも充実させてほしい。
- 年収による制限や、地域の子育て支援格差（ベビーシッター制度が利用できない）などの不平等な政策に多額のお金を使うのはやめてほしい
- 一部の娯楽施設（ゲームセンター、プリクラ）や飲食店で、特定の性別の客の利用を禁止したり、みんなにすればいいことや、行う根拠のないサービスを特定のヒトに優遇（レディースデー、女性専用車両、健康・金融相談会、不動産の料金軽減）したりしているのが、子育て世帯では夫婦間の隔たりや、全世代にとって不愉快だと思うので廃止や規制とかをしてほしい。
運営への意見、廃止に向けた活動団体の要望書も無視していて、生きづらい。
- もっと子育て世代の意見をたくさんたくさん聞いて欲しいです。
- いけんひろばでも言ったのですが、幼児期の子育てでなく、中高生の子育てについての支援も考えていただきたいです。中高生になると、行動範囲も広がり、自由が増えるのと同時に危険なことも増えます。各地域への支援だけでどうにか出来るという範囲から出てしまうことも多々あると思います。また、子育てにかかるお金も増えていくと思います。部活動であったり、食費、生活費、学費などもよりかかります。そのあたりの金銭的な支援なども考えていただきたいです。
- 出産に関する費用（診察費、検査費）が保険適応されるといいなあと感じています。
- 他の方もおっしゃっていましたが「今後生まれてくる子供」を見据えた施策も行なって欲しいと思いました。チェーン店で利用可、離乳食、野菜・果物などお米・牛乳の商品券のように「商品と交換できるクーポン」などがあったら嬉しいなと思いました。さらに「出生届などとまとめて申請→その後定期的にクーポンが届く」など手続きが簡易的＆まとめてできると、申請漏れも少なく生まれた子供達に長期的な支援を行うことができるのではと思いました。
- 子育て世代の中心は30代だと思っているので、30代の話も聞いてあげて欲しいです。特に今の30代半ば～後半の方は、「子育ては女の仕事」という悪気ない無意識のある上司がたくさんいる中で、苦勞して共育てをしてきた人がたくさんいます。働きながら子育てもして、時間のない中頑張って子供に向き合ってきた方たちがたくさんいます。その体験談から育てやすい社会にするヒントを拾って

ほしいです。(男女共にです。働き続けたい女性も、家庭を大事にしたい男性も、共に苦勞されてます。)

- 社会全体で子育てしやすくする風土について:昔、バイト先の飲食店に赤ちゃんを連れての方が一人でいらっしゃいました。その方は一人で 4 名がけのテーブルに座り、注文するや否やテーブルの上にたくさんものを広げてミルクを調合したり離乳食を開けたりし始めました。今なら、赤ちゃんを連れて歩く大変さも、ベビーカーでは店内配置的に 4 名席にしか座れないことも、周りにミルクを飲ませられるようなところがなく泣く泣く空いている飲食店で調合していたことも分かります。が、当時子育て世代と無縁だった自分には分からず、「一人で大人数テーブルに座って、しかも外からの持ち込み品を広げて…なんだこいつ」と思ってしまいました。知ってることで周りの人が助けられることも増えます。子育て世代が肩身の狭い思いをすることも減ります。若い時から子育てがどういものかを実感する機会があったり、周りに子育て世代が気軽に出かけられる場所(そして子育て世代以外の方もたくさんいる場所)が増えて目にする機会が増えたりすれば、社会全体として助け合って子育てする風土がま出来るのかなぁと思いました。必ずしも直接的な支援だけではなくて、肩身の狭い思いをせずにするようになる、ベビーカーを運べなくて困っていたら手を差し伸べられる、気軽に出かけて気分転換出来るようになる(&子供のエネルギーを発散させられる)、それだけで随分と育てやすくなるのではと思います。
- 0-2 歳の保育料、もっと安くないかなぁと思ってます。時短復帰だったら保育料とプラマイゼロの給与になるので、働く意欲がなくなります…。

以上